

わかる楽しさ できた喜び いきいき輝く作見っ子 ～考える力を育てる授業づくり～

加賀市立作見小学校

1 事例の概要

(1) 研究主題設定の理由

これからの社会は、実生活の様々な場面で直面する問題に対して「どの知識を使い、どう解決するか」を自分で考え、その過程や結果を周りのものに自分の言葉で表現、説明する力が一層重要である。本校の児童は、応用問題や自分の考えを発表する力が弱いという実態から、みんなで考え合う学習をさせることによって、思考力を養いたいと考えた。そこで昨年度は、副題を「指導と評価の一体化をめざした授業づくり」とし、指導と評価の一体化と算数的コミュニケーションを高める工夫を通して研究に取り組んだ。研究を続けてきて、今年度、どのクラスも子どもたちが活発に発表するようになり、研究の成果を実感している。子どもたちは自分の考えを発表したいと進んで挙手し、授業に活気が出てきている。

今年度は、副題を「考える力を育てる授業づくり」とし、指導と評価の一体化を基盤とし、考える力を育てる教材開発を重点として推進している。また、考える力を育てるためには、基礎学力も不可欠と考え基礎学力づくりにも取り組んでいる。

(2) 研究の内容

- ① 考える力をつける指導
- ② 指導と評価の一体化
- ③ 基礎学力の充実

A-1 教育目標

A-2 研究の構想図

A-3 研究組織図

2 実践内容

(1) 考える力をつける指導

子どもは、できるようにになりたい、分かるようになりたいと常に思っている。そのために、自分なりに考える。しかし、いつもできたり分かったりするわけではない。自分が気付かなかった考えや自分と違う表現などを友達から得ることにより、友達の考えの素晴らしさに気づく。そして、友達と学ぶことが必要であると感じるだろう。この気持ちを育てる授業こそが、考える力を育てる授業である。そこで「なぜだろう」「どうしてだろう」といった考える場を設定することによって、友達と一緒に考える楽しさを味わわせたいと考えた。

(2) 指導と評価の一体化

評価のとらえ方として、子どもをつまずきを克服させたり、よい点を知らせて自信を持たせたり、課題を自覚させて学習を改善させたりするものとおさえ、子どもの学習状況から教師自身の授業力と評価力を振り返り、授業を改善するためのものと考えた。つまり、成績をつけるための評価ではなく、指導に生かすための短いスパンの評価と、教師が単元の目標を明確にし、子どもの状況を把握しながら目標達成に向けて指導改善していく長いスパンの評価である。これらを合わせて、子どもに確かな学力を保証し、教師の授業力を鍛えていこうと考えた。そして、授業の各場面で成果を見とって次の指導に生かしていくことが大切だと考え、単元指導計画を作成した。また、個に応じた指導の工夫を図るために、子どもの実態に対応した学習形態の工夫を図った。

B-1 単元指導計画

B-2 誤答分析

B-3 評価の工夫

(3) 基礎学力の充実

好ましい授業づくりを進めるためには、学級づくりが大切だと考えた。学習のしつけ・家庭学習の系統性・ノート指導の系統性を4.5月の重点事項と考え、取り組んだ。家庭学習の重要性は、プリントにまとめ保護者に配布してお願いした。また、例えば、子どもたちの話し方の指導や聞き方の指導、教師の発問や机間指導などのように、子どもたちの考える力を育てるために必要な教師の指導技術については確認をし、授業力アップカードにまとめた。

基礎学力をつけるために、朝はじっくりと学校全体で読書を行い、静かな落ち着いた気持ちで1日が始められるようにしている。さらに、国語・算数のチャレンジタイムを設定し、終礼後に漢字・計算を中心に10分間行っている。こつこつ励むことの大切さを育てるために、努力の奨励として知徳体の各分野で校長賞を設け6月から実施している。また、当たり前のことがきちんとできるように、作見っ子の10項目も作成している。

C-1 家庭学習のプリント

C-2 授業力アップカード

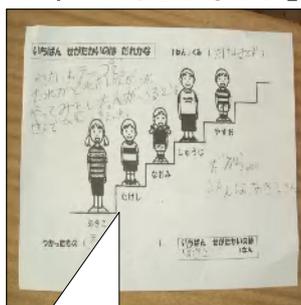
C-3 努力の奨励

C-4 日課表

3 指導の実際

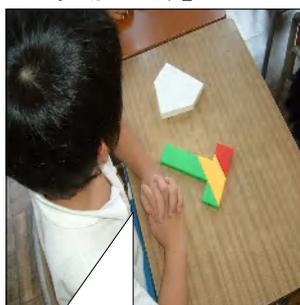
課題の工夫を通して思考を揺さぶり、思考を深める発問の工夫をし、子どもたちに思考力を身に付けさせたいと考えた。

1年「どちらがながい」



いちばんせが長いのはだれかな？

2年「形づくり」



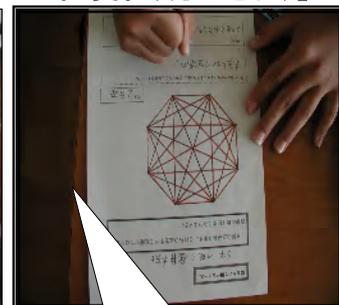
いろんなパズルにちょうせんしよう。

3年「長方形と正方形」



絵の中から、直角三角形・長方形・正方形をすべて見つけよう。

6年「変わり方のきまり」



8個の点があります。これらの点をすべて直線でつなぐと、直線の数は何本になりますか？

D-1 指導案(4年)

D-2 指導案(5年)

4 成果と課題

(1) 成果

- ・一人一人の理解の様子に気をつけて、指導を心がけるようになった。
- ・成績をつけるための評価ではなく、授業の中で生きる評価、次時の授業へ生かす評価をめざし取り組むことができた。
- ・自分の考えを、図・式・操作などいろいろな方法で表現したり、論理的に順序よく話をするために語り始めの言葉を使って説明したりすることができるようになった。

(2) 課題

- ・話したくなる・話さずにはいられない「楽しくて興味のある授業」を工夫する。
- ・考えを深めるための教師の関わり方や発問の工夫をする。
- ・読み、書き、計算などの基礎的な学力の定着を考える。

E-1 アンケート結果